省資源・資源循環

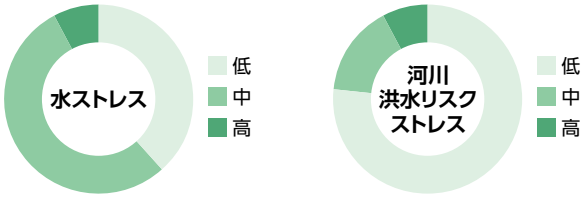
オカムラグループは、サーキュラーエコノミー（循環型経済）の考え方に基づき、製品の企画・設計から販売、メンテナンス、リユース・リサイクル、適正処理に至るまでの製品のライフサイクルの中で、限りある資源をより長く、有効に使用し、廃棄物の発生を最小化するものづくりを目指しています。生産プロセスでは、リサイクル素材や廃木材・未利用材などの使用、樹脂廃材や水の再利用などに取り組んでいます。また、生産事業所や物流センターにおけるゼロエミッション*の取り組み、お客さまが不要になった使用済み製品のリユース・リサイクルの推進により、アウトプットの削減に努めています。（データ集 ▶P.159）

＊ ゼロエミッション：工場や物流センターから排出される産業廃棄物の最終処分量をゼロにすること（オカムラグループにおけるゼロエミッションの定義による）

水資源に関する取り組み

気候変動や人口増加などによる地球規模の水資源問題の重要性を認識し、水資源の持続可能な利用を推進するための方針を持ち、事業活動における水の使用削減や有効利用に取り組んでいます。水資源管理の取り組みとして、全製造拠点における水使用量の監視・管理を強化し、原単位使用量低減の目標を設定して削減を推進しています。2024年度は原単位使用量を前年度比8.4％削減しました。また、オカムラグループの製造拠点において水リスク評価を実施し、水リスクの特定と管理を進めています。その結果、2022年度には中国の製造拠点1カ所で水ストレスと河川洪水リスクが高いことを特定しました。これを受け、水リスクに関するツールや自治体のハザードマップを活用し、過去の経験的データも考慮しながら、水リスクの実態を継続的に把握し、適切な管理策を講じています。なお、2024年度の、水資源に関する環境法令違反、事故、訴訟は0件でした。

WRIによるAqueduct*より
オカムラグループ（国内12工場、中国1工場）



＊ Aqueduct（アキダクト）：世界資源研究所（WRI）が開発した水リスクを評価するツール

取水に関する取り組み

生産事業所では塗装工程などで多くの水を使用することから、循環節水システムの導入により水資源投入量の削減を図っています。また、富士事業所は富士山の広大な裾野に位置し、豊富な地下水を工業用水や生活水として有効利用しています。

排水に関する取り組み

オカムラグループは、水質汚濁防止法を遵守し、河川への排水管理を徹底しています。生産工程で発生した排水を河川に排出している生産事業所では、国や自治体の基準より厳しい自社基準を設定し、排水処理設備にpH計を設置して常時監視するとともに、外部機関による水質汚濁防止法の排水基準値に基づいた定期的な水質測定を実施しています。排水時には、不純物除去、藻の清掃、消泡材投入など細心の注意を払い、処理槽全体を目視で日常的に確認しています。さらに、水関連法令の基準を超えないよう排水処理場を監視し、取水量・COD・BODを定期的に測定・記録することで、水質調査の透明性を確保し環境負荷低減に努めています。

水質調査

pH値監視

産業廃棄物の排出状況

オカムラグループの事業活動に伴って排出される産業廃棄物には、生産事業所から排出される生産系産業廃棄物、オフィスなどの内装工事請負時に発生する施工系産業廃棄物、お客さまが不要になった使用済み製品の回収による配送系産業廃棄物があり、いずれも有価物を含んでいます。廃棄物の処理責任を確実に果たすため、廃棄物処理を委託している事業者に対して定期的に現地確認を実施し、適正に処理されていることを確認しています。
生産系産業廃棄物の排出量については目標を設定して削減に取り組んでおりますが、2024年度は原単位前年度比2.3％低減しました。

VOICE

お客さまと共に取り組む、廃家電を利用した資源循環

（右）オフィス環境事業本部
エンジニアリング部
購買センター
田中 和司

（左）オフィス環境事業本部
日比谷支店　営業1課
西出 純也

環境配慮をコンセプトにした三菱電機さま横浜アイマークプレイス入居工事にあたり、「廃家電でアップサイクルができないか」とのご相談があり、テレビや冷蔵庫などの廃家電を利用して特注造作家具へのアップサイクルを試みました。三菱電機グループ会社である株式会社ハイパーリサイクルシステムズさまから廃家電を粉砕したフレークを支給いただき、株式会社REMAREさまの協力を得てパネル材に再生しました。テレビのバックカバーや冷蔵庫内のチルドケースなど、組成が異なる廃プラスチックを再生パネルにする製造過程の調整は難しく、造作家具のどの部分に利用できるか試作と検証を重ね、特注カウンターの天板や棚板に利用することにしました。ゲスト向けのノベルティとしてコースターを製作。また試作段階で割れてしまった再生材も、当初計画になかった壁面アートやサインプレートとなり、今回の取り組みを物語るアイテムとなっています。お客さまからは「廃家電が新たな価値を生み出す素晴らしい事例になった」というお言葉をいただきました。これからも世の中の環境配慮の取り組みにアンテナを張り、お客さまと共に資源循環につながるチャレンジをしていきたいです。

カウンターの天板、側板などに使用

室名サイン板
（文字はカッティングシート）

製造・物流・施工段階での省資源の取り組み

製造・物流・施工の各段階において産業廃棄物排出量の削減、資源循環に向けた継続的な取り組みを進めており、それぞれの取り組み内容や成果について情報を共有することで、より効果的な活動につなげています。

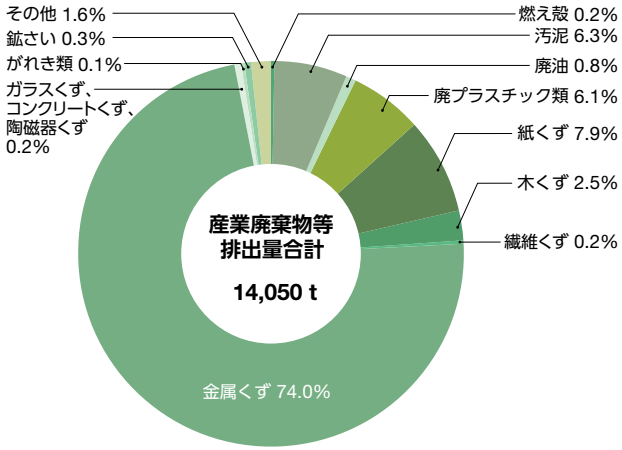
製造段階における取り組み

オカムラグループでは、製品企画・設計から調達、製造に至るまで多角的なアプローチで原材料の使用量削減に取り組んでいます。軽量設計による省資源化を追求した製品は、製造・配送時のCO_2排出量削減にも貢献しています。

生産事業所では、投入される原材料に対する製品の生産量の割合を高める「歩留まりの向上」を原材料調達時から徹底し、製造段階で発生する金属くずを中心とした廃棄物の削減に取り組んでいます。また、設備の稼働範囲を最適化することで塗料の無駄な使用を抑制し、資源消費の最適化を推進しています。

廃棄物排出時には分別を徹底し、中間処理業者を通じてリサイクルを進めることで、オカムラの国内生産事業所では継続してゼロエミッションを達成しています。2024年度も産業廃棄物の最終処分量ゼロを実現しました。

製造拠点における産業廃棄物等排出量 種類別比率



物流段階における取り組み

物流センターにおいては、新規オフィス家具の納品時に発生した梱包資材や、それまで使用されていたデスクやチェアを回収し、リサイクルを推進しています。これら回収してきた資材は配送センターにて素材ごとに分別をし、100％リサイクルを実施しています。

また、回収してきた製品の中からまだ十分使える製品のリユースを行うことに加え、2021年度よりサーキュラーエコノミー（循環型経済）の考え方に基づくトライアルの取り組みとして長期滞留品のリユースを進めています。

環境配慮型資材の活用推進

オカムラグループでは、製品配送時の一次包装における省資源化と資源循環に取り組んでいます。製品への傷や埃の付着を防ぐポリ袋をクラフト紙に変更し、段ボール形状の一体化による資源消費量の削減と再利用を促進しています。品質への影響を確認しながら、今後も環境負荷低減に努めていきます。

また、各種資材を供給するオカムラサポートアンドサービスでは、焼却時に有害ガスの発生しない緩衝材や、トレーシングペーパーを使用した紙ファイルなど、環境負荷がより低く資源循環に寄与する環境配慮型資材を積極的に推進しています。これらの取り組みを通じて、製品の梱包から資材調達に至るまで、環境負荷低減と持続可能な資源利用を目指します。

紙ファイル

緩衝材

施工段階における取り組み

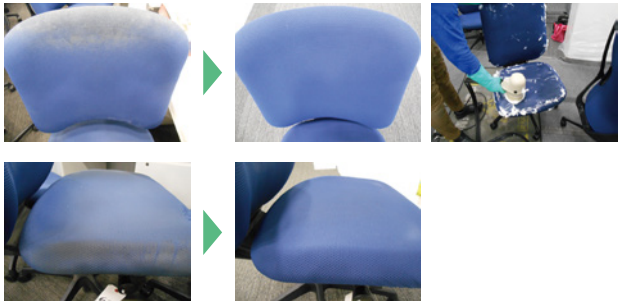
施工段階では、金属とプラスチックの混合品が廃棄物として発生します。オフィスや店舗の改装需要が高まると施工段階での廃棄物も増加するため、分別を徹底し資源としてリサイクルすることにより排出量の削減に取り組んでいます。

製品のロングライフ化をサポート

お客さまに販売した製品のアフターメンテナンスにおいて、一貫したサポート体制を構築しています。オカムラサポートアンドサービスは、オフィス家具をはじめ、パブリックスペースにおける建材製品や防水板などの防災設備に至る幅広いオカムラ製品を対象に、保守・点検、修理・修繕、クリーニングなどを通じて、製品のロングライフ化をサポートしています。製品を長期にわたって使用していただくことは、お客さまの満足度の向上と同時に資源消費の抑制、廃棄物の削減などにつながり、サーキュラーエコノミー（循環型経済）の構築に寄与しています。

クリーニング・リフォーム

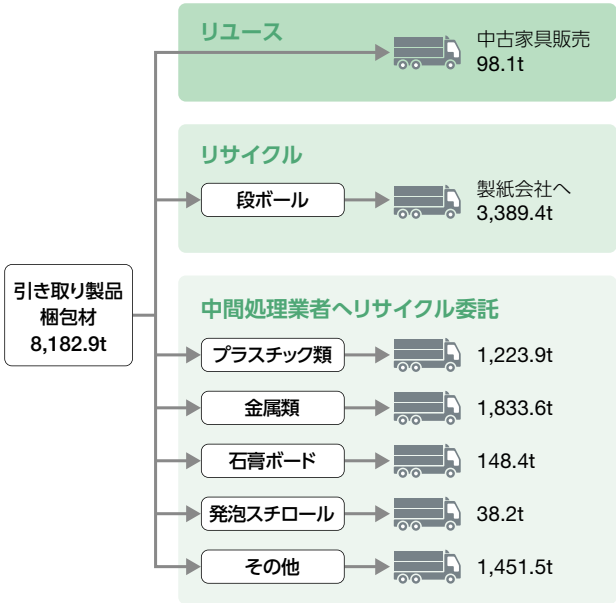
製品を最適なコンディションで長期にわたり使用していただく、快適なオフィス環境を維持するためのサービスとして、クリーニングをお客さまに提案しています。間仕切、カーペット、オフィスシーティング、ロッカーなどほとんど全てのオフィス家具がクリーニング可能です。それぞれの素材に適した洗浄方法を用いることにより、汚れを効果的に落とし、素材本来の持ち味と美しさを取り戻すことができます。また、クリーニングでは対処できない汚れのひどいものや傷みの激しいものは、生地の張り替えなどのリフォームを提案しています。



使用済み製品の資源循環の推進

製品のライフサイクル全体における環境負荷を低減するために、ロングライフ化を進めるとともに、使用済み製品の資源循環に努めています。お客さまが使用を継続できる製品については、引き続き使用していただくことを提案しています。お客さまが使用されなくなった製品については、新しい製品の納入時に要望に応じて引き取りを行い、リユースや、中間処理業者を通じ適正な処理を行い、資源の有効活用と廃棄物の削減につなげています。
また、製品の輸送・搬入に使用した梱包材についても、素材ごとに分別し資源循環に努めています。

使用済み製品を引き取り選別しリユース・リサイクルへ

お客さまから引き取りを行った製品は、使用期間、機能や外観などの状況、修理の可能性などにより選別を行い、製品としてのリユース、素材ごとのリサイクルを進めています。
こうした使用済み製品のリユース・リサイクルの取り組みを通じて環境負荷低減につなげています。

引き取り製品・梱包材のリユース・リサイクル状況（2024年度）